



平成 20 年 11 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社イマージュホールディングス
代表者名 代表取締役社長 南 保 正 義
(コード番号：9 9 4 7 東証・大証 第 1 部)
問合せ先 取締役 明 賀 正 一
(TEL：087-874-7070)

「継続企業の前提に関する注記」に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社の平成 21 年 2 月期の半期報告書における継続企業の前提に関する事項について、下記のとおり注記することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 2 月期中間連結財務諸表

当社グループは、主力の「イマージュ」カタログの不振や連結子会社株式会社 T. C ターミナルで展開する店舗販売事業の不振から、平成 17 年 2 月期以降継続的に営業損失を計上しており、当中間連結会計期間においても、店舗販売事業の不振から 410 百万円の営業損失を計上し、また、連結子会社株式会社 T. C ターミナルの解散を決定したことによる特別損失の計上等により、1,736 百万円の間純損失を計上することとなりました。この結果、店舗販売事業の整理の過程で臨時的な支出が発生することにより、一時的な運転資金の不足が生じる可能性があります。このような状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社グループはこのような状況を解消すべく、コア事業である「イマージュ事業（カタログ、ネット連動による通信販売事業）」と安定的な収益源となっている「化粧品事業」の二つの事業に経営資源を集中させ、着実に売上規模を拡大させていくことで利益成長を図り、安定的な黒字体質への転換を目指してまいります。

通信販売事業における取り組みとして、以下のような施策を実施してまいります。

- ① 「イマージュ」カタログの回復基調を維持継続することにより売上高の拡大と採算性の改善を図ります。具体的には、価格競争力のある商品開発、カタログ誌面の改善、Web 専用の誘引戦略商品の開発と Web チャンネルの最大活用等により、新規顧客獲得数の持続的な増加と既存顧客の継続率維持により、購入顧客数の増加を図ります。
- ② 「イマージュ ルージュ」カタログのターゲット層を 40 歳代後半まで拡大し、更なる事業規模の拡大を図ります。
- ③ 化粧品事業において、保湿関連の「ライスフォース」シリーズを中心とする既存商品で現状の売上高を維持し、安定的な利益の確保を図る一方、にきびケア商品「アクポレス」や健康食品等の新商品の投入や海外市場における事業展開の開始など、次なる成長を牽引する柱の育成を図ります。

店舗販売事業においては、すでに連結子会社株式会社 T. C ターミナルの解散を決定しており、縮小・見直しを行っていく方針であります。連結子会社株式会社東京キャンにおいては、効率的な事業運営を徹底し採算の改善に努め、少なくとも損失を計上しない体制を早期に整備してまいります。

さらに、一時的な運転資金の不足が生じる可能性に対処すべく、平成 20 年 10 月及び 11 月に当社代表取締役社長南保正義から運転資金を借入れております。また、第三者割当増資等を含めた資本政策について具体的な検討を進めてまいります。

このような取り組みを確実に実施していくことにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を解消できると判断しております。従いまして、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

2. 平成 21 年 2 月期中間財務諸表

当社は、主力の「イマージュ」カタログの不振や子会社株式会社 T. C ターミナルで展開する店舗販売事業の不振に伴う事業子会社に対する個別引当等により、平成 17 年 2 月期以降継続的に当期純損失を計上しており、当中間会計期間においても、子会社株式会社 T. C ターミナルの解散を決定したことによる特別損失の計上等により、2,028 百万円の間接純損失を計上することとなりました。この結果、店舗販売事業の整理の過程で臨時的な支出が発生することにより、一時的な運転資金の不足が生じる可能性があります。このような状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社はこのような状況を解消すべく、事業子会社において、コア事業である「イマージュ事業（カタログ、ネット連動による通信販売事業）」と安定的な収益源となっている「化粧品事業」の二つの事業に経営資源を集中させ、着実に売上規模を拡大させていくことで利益成長を図り、安定的な黒字体質への転換を目指してまいります。

通信販売事業における具体的取り組みとして、以下のような施策を実施してまいります。

- ① 「イマージュ」カタログの回復基調を維持継続することにより売上高の拡大と採算性の改善を図ります。具体的には、価格競争力のある商品開発、カタログ誌面の改善、Web 専用の誘引戦略商品の開発と Web チャンネルの最大活用等により、新規顧客獲得数の持続的な増加と既存顧客の継続率維持により、購入顧客数の増加を図ります。
- ② 「イマージュ ルージュ」カタログのターゲット層を 40 歳代後半まで拡大し、更なる事業規模の拡大を図ります。
- ③ 化粧品事業において、保湿関連の「ライスフォース」シリーズを中心とする既存商品で現状の売上高を維持し、安定的な利益の確保を図る一方、にきびケア商品「アクボレス」や健康食品等の新商品の投入や海外市場における事業展開の開始など、次なる成長を牽引する柱の育成を図ります。

店舗販売事業においては、すでに子会社株式会社 T. C ターミナルの解散を決定しており、縮小・見直しを行っていく方針であります。子会社株式会社東京キャンにおいては、効率的な事業運営を徹底し採算の改善に努め、少なくとも損失を計上しない体制を早期に整備してまいります。

さらに、一時的な運転資金の不足が生じる可能性に対処すべく、平成 20 年 10 月及び 11 月に当社代表取締役社長南保正義から運転資金を借入れております。また、第三者割当増資等を含めた資本政策について具体的な検討を進めてまいります。

このような取り組みを確実に実施していくことにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を解消できると判断しております。従いまして、中間財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を中間財務諸表には反映しておりません。

以 上